

令和4年度自己評価表(最終評価)

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさと感謝」の心を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と自立のための能力・態度を育む。		今年度の 重点目標		1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 「ふるさと」とつながる心の育成 4 社会的な自立に向けた支援		
年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○「分かる」を大切にしながら主体的に授業に取り組む態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。 ○単位修得率70%以上	○全職員による生徒情報の共有 ○全ての教員によるユニバーサルデザイン研修・合理的配慮の視点を取り入れた授業の展開 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を転入職員に行った。 ○特別支援教育支援員を配置し、個別指導を充実させている。 ○前期末での単位修得率は定時制77.3%、通信制84.7%であり、目標を達成した。	A	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに情報を共有し、個別の支援・声かけを継続し、授業への動機付けを行う。	
	○ICT活用教育の推進	○世の中のICTの普及と利便性より、情報活用能力の育成が必要である。	○各自の課題の解決に向け、主体的にICTの活用ができる。 ○ICT機器に抵抗感のない生徒70%以上	○ICTの活用のための教員研修と環境整備 ○ICTを活用した教材の充実 ○ICTを利用した授業実践 ○NHK高校講座でのICT活用	○タブレットは昨年に引き続き多くの先生が授業等で利用されている。 ○授業アンケートをGoogle Classroomで行うなど、授業での活用を促進している。 ○各教室にChromebookの接続ケーブルを設置し、授業で活用できる環境整備を行った。 ○全職員対象にGoogle Classroom活用の研修会を行った。	B	○タブレット端末を含めICT機器の活用を引き続き推進し、ICT機器のスキルアップを図る。 ○Google Classroomのさらなる活用を図る。 ○今後も引き続き、ICTを活用しやすい環境整備をしていく。	
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーターとの連携 ○通信制就学支援事業(学校内託児)の推進 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす校内支援体制の推進	○中学校からの引継や関係機関との情報共有、合理的配慮申請による支援会議やHyper-QUを実施し、生徒理解を深めた。 ○各課程会議での情報共有や関係職員間の連携等こまめな情報共有を行った。 ○通信制就学支援事業(学校内託児)は、今年度は20回実施し、託児児童は42人で継続利用する生徒もあり、好評だった。 ○「通級による指導」を定時制課程5人、通信制課程1人が受講し、生徒の満足度も高かった。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引継や関係機関との情報共有、「合理的配慮」申請による支援会議やHyper-QUを活用し、個別支援をさらに充実させる。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。 ○「通級による指導」に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。	
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康を意識した体調管理指導の推進	○遅刻・欠席指導については担任が中心に生徒への声掛け、家庭連絡を行うなど丁寧な指導を行っている。 ○自動車、自動二輪車通学生の事故はなかった。自転車通学生のヘルメット着用率は低い。 ○生徒はマスク着用、手指の消毒等適切な感染症予防を実施している。	B	○教職員間で生徒情報を共有し、生徒の実情に沿った指導を継続する。 ○自転車通学生のヘルメット着用について粘り強く指導を継続する。 ○引き続き感染症対策を徹底する。	
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成をする環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互い尊重し合ってクラスが居心地の良い場となる。 ○学校が楽しいと感じる生徒80%以上	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウンターの実施 ○性に関する指導や人権教育の充実	○定時制課程ではエンカウンターを実施し、居心地のよいクラス的环境作り、人間関係作りを行った。 ○クラスが安心できる場所となり、中学校時に比べて登校が継続できている生徒が増えた。 ○性に関する指導や人権教育指導をロングホームルームをはじめ機会を見つけての個別指導も行い、意識啓発を行った。 ○教職員研修や生徒向け講演会を実施し、教員の生徒理解、生徒の自己理解が深まった。	B	○生徒間の人間関係力を引き続き育成する。 ○定時制課程では今後もエンカウンターを新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら実施し、安心できる居場所としてのクラス作りを行う。	
	○個に応じた指導と集団の活性化	○人との関わり方やコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○対象となる生徒が自分自身を認めながら自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができるようになる。	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○自主性を活かした部活動の運営 ○執行部活動の充実	○学校内で生徒情報の共有を図り、必要であれば外部機関とも連携し、個に応じた指導を行っている。 ○実施した「いじめについてのアンケート」において、いじめは現認されなかった。 ○部活動は、部員同士で互いに教えあうなど生徒が自主的に活動する姿が見える。 ○生徒会執行部運営で、部活紹介、スポーツフェスティバル、生徒総会、生徒会選挙が行われた。来年度の生徒会行事充実に向けた企画を立案している。	B	○引き続き、学校内での情報共有と、外部機関の協力を得ながら個に応じた指導を行う。 ○来年度の定通総体、各種大会等に向け、活発な活動を促す。 ○定期的に執行部会を開き、生徒会企画行事の充実を図る。	
3 「ふるさと」とつながる心の育成	○ふるさとキャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○自分自身の適性・特徴にあった進路実現を達成することができる。 ○自分の適性、就きたい職業について考えるようになった生徒の割合70%以上	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・就職支援相談員と連携した進路指導 ○アルバイト・インターンシップを通した勤労観の育成	○進路LHR、担任個別指導を多く実施し、細かい情報提供を行った。これにより生徒の進路意識が向上し、定時制課程では早期にほぼ全員の進路が決定、通信制課程では国立大合格者が出るなど進路実現につなげることができた。	B	○就職支援員と教員の連携を深める。 ○4年次生の就職ガイダンス参加を促す。	
	○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○自立に向けた活動を計画どおり実施し、プレゼンテーションなど自己表現能力が徐々に身につけてきている。また、卒業後の進路目標など明確になってきた。	B	○今後も自立に向けた活動を系統的に企画・実施をする。	
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○自分が必要な進路相談および対策や準備ができ、進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センターとの連携	○新型コロナウイルス感染症対策で事業所見学はできなかったが上級学校見学は実施した。 ○ハローワークとは講演会実施の他、連携を密にして進路指導にあたっている。(定時制課程は2/17実施予定) ○教育相談・担任と連携し、福祉就労が実現した。	B	○必要に応じて外部との連携を密にしていく。	
4 社会的な自立に向けた支援	○体験活動をおとした社会性の育成と自己有用感の醸成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高めることが必要である。	○自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。 ○「自信がついた活動があった」と感じる生徒の割合70%以上	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)および実習を通した達成感の習得に向けた取組の推進 ○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進	○新型コロナウイルス感染症対策により一部が実施できなかったが、コロナ対策を講じた上で実施できたものは、体験的活動を通して、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活を送ることができるようになってきている。 ○多くの生徒がアルバイトを経験し、ボランティア活動にも参加している。学年ごとに地域美化活動を実施している。	B	○今後も引き続き体験活動をおとして、生徒自ら進んで行動できるよう、事業を実施する。	
	○地域との交流と協働	○地域との交流をおし、地域社会や周りの環境に対する関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心を持ち、異世代とのコミュニケーションができる。 ○園児との交流に積極的に参加した生徒の割合80%以上	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○コミュニティ・スクールによる意見・提言の活用 ○淀江地区との交流を通したふるさとの特徴理解(銭太鼓・車踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動、淀江さんこ節保存会)	○計画を縮小した事業もあるが、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で実施できたものは、地域の人々や文化に触れることで他者との関わりや地域のつながりを学ぶことをできている。	B	○今後も地域との交流活動や貢献活動など、引き続き計画した事業を実施する。	
	○自己表現力の育成	○自分の思いや考えをうまく相手に伝えることができないため、相手に誤解を与える、誤解してしまうことがある。	○周囲の状況に配慮した発言・行動が出来る。	○協働学習の推進 ○発表する・発表を聞くときの意識、姿勢の指導 ○一斉読書を活用した読書指導の充実	○学習発表会を見据え、産業社会と人間、総合的な探究の時間において学年団を中心に指導している。 ○毎週一斉読書を実施した。	B	○日々の授業での意識・姿勢の指導を実施していく。	
5 学校業務改善に向けての取組	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月45時間、年360時間を超える時間外業務がない。	○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者への声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施	○月45時間超勤務者は12月末で延べ2名(実質該当者1名)で、100時間を超える月はなかった。 ○超勤者への声かけを随時行っている。 ○定時退勤日・定時退勤週は大体実施できている。	B	○引き続き声かけをしていく。 ○来年度も定時退勤日・定期退勤週を設定する。	
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要なおとももある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理 ○職場環境での感染予防対策の徹底	○2回安全点検を実施し、危険箇所等の確認をした。 ○職員室は比較的整頓されている。 ○共有フォルダの整理はまだ中途である。 ○日常的にマスク着用の指導や校内消毒推進、二酸化炭素濃度測定による室内換気など感染予防対策を実施している。	B	○安全点検において破損等確認すれば今後とも迅速に対応する。 ○共有フォルダの整理を推進していく。 ○引き続き感染予防に努める。	

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

〔100%〕

〔80%程度〕

〔60%程度〕

〔40%程度〕

〔30%以下〕